



知事コラム

佐竹敬久のさあ、やるど！

観光立国・常にマルチな視点を

工業国として世界のトップを走ってきた日本も、海外の急速な追い上げや人口減少局面に入り国内需要が減退傾向となり、また、ハード面は強いもののソフト面では柔軟性を欠く国柄故に、世界的に情報系産業が大きな地位を占めるに連れて、経済基盤が少しずつ弱体化し始めてきています。

そのような中で、「クールジャパン」をメインフレーズに、自然や歴史、食、さらには「おもてなし」という日本人特有のきめ細かいサービス精神をツールに、海外からの観光誘客を経済成長に結びつけようとする動きが国主導で進められ、近年飛躍的に海外観光客の入り込みが増加し、始めは首都圏や有名大都市に集中していたものが、最近では日本を肌で感ずることのできる地方圏の町や村のレベルにまで広がってきました。

本県でも、韓国との定期便が飛んでいた時には急激に韓国からの観光入り込みが増え、その後定期便が残念ながら運休となったものの、台湾を中心に国際チャーター便が数多く運航され、仙台空港の国際定期便が増えるのと相まって、台湾、韓国、中国、タイ等、アジア圏からの入り込みに加え、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパなどからのお客さんも時々目にするようになりました。

また海外観光客の入り込み地域も、角館、田沢湖のある仙北市や横手市など観光資源に恵まれた地域に加え、近年では「秋田犬」が国際的に有名になり、大館や北秋、鹿角方面も増加し、「なまはげ」の男鹿半島も知名度が上がってきています。

県や市町村も、観光案内の多言語化やスマホ対応の観光情報 WEB の立ち上げ、観光従事者の外国語研修の実施、そして私や市町村長さん、観光関係者による海外へのトップセールスも欠かせないものになっています。

東京オリンピック・パラリンピックを2年後に控え、さらに増加傾向となることに加え、副次効果としての地域農産物の海外輸出にも力を入れていかなければなりません。

しかしです。手放しで喜んでばかりいられない状況にもなっています。

観光は水物でもあります。相手国との関係が緊張すると急激に落ち込むこともありますし、世界的な景気の冷え込み、為替ルートの激変などにより浮き沈みも激しいものです。

さらに最近では、国際チャーター便や定期便の折衝の際に、「日本からの観光客が少なく、釣り合いが取れない、一方通行では飛ばせない。」という航空会社も多くなってきました。

さらに、国内の観光地のホテルやスキー場、ゴルフ場などを海外資本が買い取り、観光消費が地域経済と直接結び付かない状況も顕著になりつつあります。

物事を一面のみから見るのではなく、様々な面から考察しながら対応するという、マルチな視点を持って、適切に対応することを忘れてはなりません。